



さいとう・えいいち ●1955年東京都生まれ。慶應義塾大学医学部卒業。1986年同大学医学部リハビリテーション科助手。1990年東京都リハビリテーション病院リハビリテーション科医長。1995年藤田保健衛生大学医学部助教授。1998年同教授。同大学病院副院長、学校法人藤田学園理事、専務理事等を歴任し、2019年より現職。専門はリハビリテーション医学。



荒波に挑むトップ 私の改革論 No.34 藤田医科大学・学長 才藤 栄一

取材・文/仲谷宏 撮影/加納将人

「最先端」と「やさしさ」で 高度な医療・福祉人材を育成 「速やかな意思決定を通して世界的な教育・研究拠点を創出」

好奇心を刺激し 主体性を育む教育へ

高等教育は、初等中等教育と区別して考える必要があります。高校までは多くの場合、正解がある問題を扱い、100点をめざす教育が行われます。しかし実社会の諸問題に正解はなく、100点も

存在しません。ですから、大学では100点を取るための勉強から脱却することが重要です。どれだけ勉強しても、決して学び尽くすことはないという事実の前に謙虚になり、自分がこれから一生をかけて何を学び、どのような能力を伸ばしていくのかを考える——高等教育の意義は、まさにこの点

にあると言えるでしょう。この考えは、本学の建学の理念である「独創一理」に通じるものがあります。建学の理念にはさまざまな解釈がありますが私は、「たくさんある答えの中から自分の答えを見つけ出し、新しい時代を切り拓く」ことだと捉えています。ここで問われているのは正解では

なく、自分の生き方なのです。自分が生きていく方向性を模索するうえで欠かせないのが「好奇心」です。しかし最近の学生は、正解のある世界で教えられることに慣れすぎており、好奇心が抑制されているように感じます。主体的にものごとを考え続ける力も弱まっています。正解への最短ルートを求めるあまり、自ら考え続けることをなおざりにしてきたからではないでしょうか。

最先端の研究成果で 地域の課題を解決

学生の主体性を引き出し、高度で先進的な「良き医療人」を育成するために、私が大学運営において大切にしているのは、「最先端」と「やさしさ」です。なぜなら、医療・福祉は、最先端の技術や機器を取り入れることで進歩するものですし、人に対するやさしさがあつてこそ人や地域に受け入れられるものだからです。

これは、チーム医療に必要な力を養成する本学独自の教育プログラムで、医師や看護師、医療スタッフを志す学生がチームを組み、一緒に課題に取り組みます。次年度からは「他者に関心を持つ」「傾聴する」「質問する」の3つを重点的に学ぶプログラムを初年次に導入する予定で、教育効果のさらなる向上を図っていきます。

「やさしさ」と「最先端」の両面からの取り組みとしては、本学の近くにある豊明団地での「地域包括ケア」の先進モデル開発があります。高度経済成長期に建設されたこの団地では、65歳以上の高齢者が居住者の約25%を占めるほどにまで高齢化が進んでいます。5階建てで、エレベーターがないため、高層階には空き部屋がめだち、団地そのものの活気も失われつつありました。そこで、2014年に豊明市、UR都市機構、本学の三者で包括協定を締結し、地域包括ケアシステムづくりを行うことにしたのです。

抱いています。国内の大学の中で上位にランキングされている本学がホスト校となり、知の拠点としての日本の大学の先進性を、あらためて世界にアピールしたいのです。

サミットのテーマは、「境界を越え、創造性を引き出す」です。若年層の減少や高齢化、国際交流の進展、AIの台頭やSDGsなど、日本やアジア諸国、そしてグローバル社会が直面している課題に、大学が国や学問領域などの境界を越え、知を結集させます。主要登壇者としてノーベル賞受賞者や国際的リーダー、アジア各国を代表するトップ大学の学長らを招待する予定です。日本の大学の皆様も、是非、本学にお越しいただきたいと心より願っています。

特徴的な取り組みの一つに、学生の団地居住があります。これは、団地の空き部屋を改装し、月1回のボランティア参加などを条件に本学の学生が割引家賃で住めるようにしたものです。学生にとって

「まちかど保健室」を開設したり、介護の最先端技術を集めた「ロボットックススマートホーム」の実証実験を行ったりするなど、今ではこの団地は地域の医療福祉拠点になっています。入居率が90%を超えるなど、団地そのものも活性化してきています。

サミットの開催を通して、世界の中で「FUJITA」の名が広まる効果を期待していますが、狙いはそれだけではありません。今世界に打って出ないと日本の高等教育が生き残れない危機感を強く

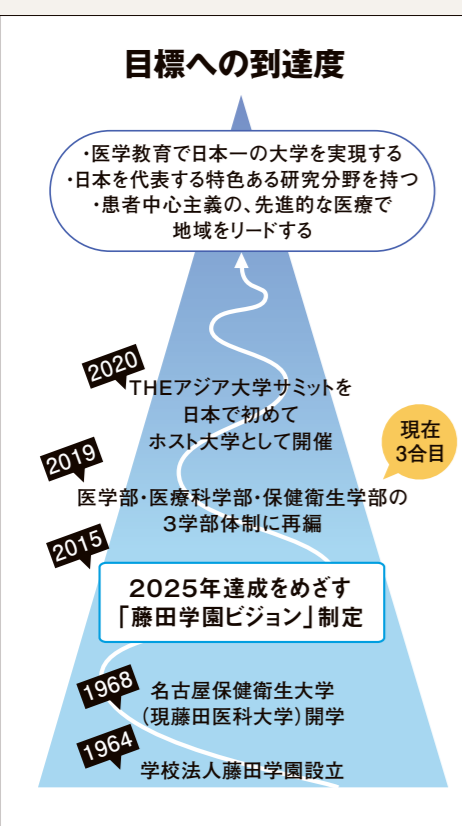
サミットには「国際再生医療センター」を新たに開設し、世界的な再生医療の教育・研究の拠点づくりを進めています。これはこれまで本学にはなかった研究分野であり、戦略的な取り組みとして、研究成果に期待しています。

THEアジア大学サミットを初開催
世界に日本をアピール

このように本学が、世界的に強

THEアジア大学サミットを初開催
世界に日本をアピール

THEアジア大学サミットを初開催
世界に日本をアピール



*1 Times Higher Education *2 Crossing boundaries,unlocking creativity